

検査体制整備計画（案）の算定の考え方

	項目	国指針（4/1事務連絡）	道計画（案）の算定の考え方
検査 需要	I 今後の感染拡大に備えた需要 ①基本需要 ②変異株需要 II 高齢者施設等における需要 ③4～6月の集中検査需要 ④人口10万人対15人以上地域の需要	I ①「1日当たり過去最大検査数」と、「1日当たり過去最大新規陽性者÷その日の陽性率」の大きい方 ※緊急最大時は、1日当たり過去最大新規陽性者数×2÷陽性率10% ②必要数、難しい場合は①の1割程度 II ③国に提出した計画値 ④昨冬に2週間程度、人口10万人当たり新規感染者数が15人以上に該当した地域での需要	I (①、②) 1日当たり過去最大検査数×1.1 ※緊急最大時は、1日当たり過去最大新規陽性者数×2÷陽性率10% II (③、④) 札幌市策定計画値及び道等での該当地域の高齢者施設、医療機関、障がい者施設従事者への検査計画値を算定
相談 体制	①発熱患者等に対応するかかりつけ医等の医療機関数 ②受診・相談センターの電話回線数（人口10万人当たり） ③受診相談センターの電話応答率	過去最大規模の検査需要に対応できる相談体制を構築	昨冬の実績等を踏まえ算定
検体 採取	①診療・検査医療機関 ②検査センター ③その他	少なくとも検査需要の1.1倍に対応できるような能力を確保 <採取> ○発熱者等は診療・検査医療機関での検体採取を基本（現在の体制を維持） ○新規感染者が増加し、濃厚接触者等の検査需要が急増した場合になどにも目詰まりが生じないよう体制を整備	昨冬の実績等を踏まえ、「医療機関」と「それ以外」での検体採取割合を見込むとともに、箇所数×1日当たり件数により、 検査需要×1.1を上回るよう算定
検査 (分析) 能力	①地方衛生研究所 ②保健所 ③民間検査機関 ④大学・医療機関	<検査（分析）> ○検査方法の特性を踏まえつつ、適切な組み合わせによる迅速で効率的な検査体制の構築	検体採取方法に対応した検査（分析）とし、 衛生研究所、保健所、民間検査機関、医療機関等の4月以降の検査能力の拡充や、昨冬の実績を踏まえ算定。高齢者施設等従事者への検査では抗原定性検査も活用

※「通常最大時」（過去最大1日当たり検査需要）と、「緊急最大時」（過去最大1日当たり新規陽性者の2倍程度に対応した検査需要）を見込むとともに、それに対応した検体採取、検査（分析）能力を算定